

令和 3 年 5 月 11 日現在

機関番号：22604

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2018～2020

課題番号：18K02032

研究課題名（和文）新自由主義をめぐる諸議論の布置連関構造の解明：テキストマイニングを用いて

研究課題名（英文）A Text Mining Analysis of the Term "Neo-Liberalism" in Japan

研究代表者

左古 輝人（SAKO, Teruhito）

東京都立大学・人文科学研究科・教授

研究者番号：90453034

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,100,000円

研究成果の概要（和文）：日本の公的言論において「新自由主義」という語句が何を意味し、何を指示してきたかを、図書と逐次刊行物記事のタイトルのテキストマイニングにより考察した。その結果、主に以下の4点が判明した。1)20世紀の「新自由主義」には、少なくとも5通りの異なる概念が存在した。2)20世紀後半を通じて最も頻繁に言及されたのはニューリベラリズムとオールド自由主義だった。3)21世紀に入り、突然、新自由主義はもっぱらポスト・ケインズ新自由主義と同一視されるようになった。4)2000年代後半、新自由主義の出現が顕著に増大したが、その主要因はもっぱらハーヴェイとフーコーの翻訳紹介だった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

学術研究には用語の定義が欠かせない。定義の検討にあたっては、当該用語が用いられてきた歴史を顧みるのが生産的である。

「新自由主義」は過去20年ほどきわめて頻繁に用いられてきたが、用語の歴史への理解が伴わないと、一過性の流行語に終わってしまう恐れがある。本研究は、「新自由主義」を、現代の人間の社会的生存状況を考察する上で有用な用語として維持すべく、その100年以上におよぶ存外長い歴史を、データサイエンスの手法を用いて概括した。

研究成果の概要（英文）：I clarified what the phrase "neoliberalism" meant in Japanese public discussion by text mining of the titles of books and serials. The following four points were found. 1) There were at least five different concepts of "neoliberalism" in the 20th century Japan. 2) Hobsonian New liberalism and German Ordoliberalismus were most frequent throughout the second half of the 20th century. 3) In the 21st century, suddenly neoliberalism came to be equated exclusively with Friedman's Post-Keynesian neoliberalism. 4) In the late 2000s, the occurrence of "neoliberalism" increased explosively, mainly due to the publications of Japanese translations of Harvey (2005) and Foucault(2004).

研究分野：社会学

キーワード：新自由主義 テキストマイニング

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

研究代表者は、1990年代半ばから、テキストマイニングの諸手法を用いて、社会科学の基礎的な用語の歴史を明らかにする研究群に取り組んできた。これまでに日本語「社会」、英語「society」、日本語「ジェンダー」、日本語「市民社会」など、社会科学において比較的よく定着しているキーワード群を扱ってきた。

本研究では、それらとはやや異なり、こんにち一般的には21世紀初頭に突然登場したキーワードのように思われがちな「新自由主義」の解明を図ることとした。「新自由主義」が、過去100年以上にわたり日本の公的言論のなかでどのような意味諸内容、どのような指示諸対象を有してきたかを明らかにする本研究に続き、明治期以降の日本語の「国家」の研究をおこない、しかる後にこれまでの研究の全体を総括する予定だ。

テキストマイニングは、過去の社会科学におけるコンテンツアナリシスを、遥かに巨大なデータセットに、デジタル計算機の支援を得ながら適用する研究手法である。2000年に前後して日本語形態素解析の自動化が実現し、また各種オンライン・データベースの整備が進んできたことから普及し、近年では、データサイエンスと相互作用しながら発展を続けている。研究代表者はその草創期からテキストマイニングを用い、社会科学における実質的な知見を積み上げてきた一人である。

研究代表者は2014年設立のソーシャルコンピューテーション学会の代表世話人であり、テキストマイニングおよびそれに関連する諸領域・諸手法(デジタル人文学、計算社会科学、計量書誌学、テキストアナリティクスなど)に関心を有する研究者や民間人に、研究発表と議論の場を提供している。

2. 研究の目的

日本語「新自由主義」が、過去100年以上にわたり日本の公的言論のなかでどのような意味諸内容、どのような指示諸対象を有してきたかを、図書と逐次刊行物の書誌情報のテキストマイニングにより明らかにすることを期した。それにより、「新自由主義」が、今後も長く社会科学にとって有意義な用語として用いられ得るための前提条件を整えることを目指した。の

3. 研究の方法

社会科学は、用語の意味を規約主義的に捉えすぎる傾向にあり、悪くすると「定義から見える対象しか見ない」自家中毒の恐れがある。思想史は、そうした自家中毒の恐れこそ小さいものの、テキストの「行間」や著者の「真意」をめぐって、エビデンスとのかかわりの薄い独善的な議論に陥る懸念がある。このダブルバインドの克服を模索するなかで研究代表者が見出したのが、テキストマイニングという方法である。

テキストマイニングを用いれば、一人の人間が眼と手を使って読み通すことが不可能ほどの巨大な文字資料を、特定文字列の出現頻度や共起頻度の計測によって《読み》、有意義な知見を得ることができる。公開性の高いデータソースを用いれば、研究者同士で知見の妥当性をチェックし合うこともできる。なお、「テキストマイニング」は日本語に馴染まないので、研究代表者はこれを「計読」と呼称するよう提唱している。

4. 研究成果

【著書】

1) 左古輝人編著『テキスト計量の最前線：データ時代の社会知を拓く』ひつじ書房、2021年3月。全体の編集、および、序章、第1章「新自由主義探究 日英の比較から」の執筆を担当した。

2) 江原由美子編『争点としてのジェンダー：交錯する科学・社会・政治』ハーベスト社、2019年10月。第1章「日本の定期刊行物記事における語句「ジェンダー」とそれを取り巻く語彙の変遷 1980年代-2015年」の執筆を担当した。

【論文】

3) 左古輝人「日本における市民社会という語句：テキストマイニングによる一観念史」『人文学報 社会学編』515-1, 33-68, 2019. 新自由主義と同じ時期に爆発的に増殖したキーワードである「市民社会」の歴史を概観した。

4) 左古輝人「国家, ステイト, その周辺 - 設問編 - 」『人文学報 社会学編』517-1, 1-80, 2021. 21世紀に入り、「新自由主義的に構造改革されるべきもの」とされた国家とは、そもそも何なのか。国家をめぐる戦後日本の社会科学的議論から脱落してきた諸要因を列挙し、解明すべき論点を素描した。

【学会報告】

5) 左古輝人「00年代日本の言論における『新自由主義』レットテル テキストマイニングによる分析」第90回日本社会学会大会、於東京女子大学、2017年11月4日、5日。本研究計画の原型となった報告である。

6) 左古輝人「新自由主義とは何か、その自然史的記述に向けて」第10回ソーシャルコンピューテーション学会研究例会、於首都大学東京秋葉原キャンパス、2019年9月15日。本研究の中間報告をおこなった。

7) Teruhito SAKO. The Term 'Civil Society' in Japan, Social Science History Association, Palmer house Hilton Chicago, IL, USA, 2019年11月23日。英語圏で類似の手法を用いている研究者たちと研究成果を交換した。

8) 左古輝人「概念史与思想史」『现代中国政治-社会关键概念大辞典』《学衡概念史丛书》编纂工作会议、南京大学仙林校区、中国、2019年10月23日。中国で類似の手法に関心を抱く思想史・概念史研究者たちと研究成果を交換した。

【国際研究集会】

9) 2018 Academic Exchange Program of TMU & UoS. 2018年8月~9月。8月に英シェフィールド大学文学・歴史学部を訪問、9月にシェフィールドから研究者2名を東京都立大学に招聘し、合計2か月に渡り、密度の高い研究交流をおこなった。成果はプロシーディングスとして刊行した。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計2件（うち査読付論文 0件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 左古輝人	4. 巻 514-2
2. 論文標題 日本における市民社会という語句：テキストマイニングによる一觀念史	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 人文学報	6. 最初と最後の頁 33-68
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 左古輝人	4. 巻 517-1
2. 論文標題 国家、ステイト、その周辺：設問編	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 人文学報	6. 最初と最後の頁 51-80
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計5件（うち招待講演 0件/うち国際学会 3件）

1. 発表者名 左古輝人
2. 発表標題 新自由主義とは何か
3. 学会等名 日本社会学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 左古輝人
2. 発表標題 概念史与思想史
3. 学会等名 《現代中国政治・社会概念大辞典》《学衡概念史》編纂工作会議（国際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Teruhito SAKO
2. 発表標題 The Term 'Civil Society' in Japan
3. 学会等名 Social Science Hisory Association (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 左古輝人
2. 発表標題 新自由主義とは何か
3. 学会等名 ソーシャルコンピューテーション学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Sako Teruhito
2. 発表標題 The Term 'Shimin Shakai (Civil Society)' in Japan: A History of an Idea Using Text Mining Techniques
3. 学会等名 2018 Academic Exchange Program of TMU & Uos (国際学会)
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計2件

1. 著者名 江原 由美子	4. 発行年 2019年
2. 出版社 ハーベスト社	5. 総ページ数 252
3. 書名 争点としてのジェンダー : 交錯する科学・社会・政治	

1. 著者名 左古 輝人	4. 発行年 2021年
2. 出版社 ひつじ書房	5. 総ページ数 176
3. 書名 テキスト計量の最前線	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計1件

国際研究集会 2018 Academic Exchange Program of TMU & UoS	開催年 2018年～2018年
---	--------------------

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------